

クリスチャンが生活を通して神様の恵みを証し、イエス・キリストに対する信仰を話す機会が与えられます。そのようなときに、イエス・キリストはどのようなお方であると話すでしょうか。

1. イエスはキリスト (: 13～16)

イエス様は活動していたガリラヤ湖周辺からしばらく離れて、弟子たちだけとの静かな時を持たれました。イエス様は弟子たちにお尋ねになりました。「人々は人の子をだれだと言っていますか」。

それに対して弟子たちは人々がイエス様について話していることを答えました。弟子たちが聞いていた人々の考えには、人々のイエス様に対する期待が表れています。けれども、どれも正しいものではありません。

今この世の人々はイエス様のことをどのように言っているのでしょうか。世の人々の理解に惑わされて決心できないでいる人が、一歩踏み出して、礼拝に集ったり、聖書を学んだりできるようにと願います。

人々の意見が出し尽くされてから、イエス様は、今度は弟子たち自身のことをお尋ねになりました。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」。その時、ペテロが答えました。16 節。ペテロの答えは、人々の考えとは全く違っていました。この答えは、イエス様がどなたであるかをズバリ言い当てています。

弟子たちがイエス様から教えていただいた神様は、いのちのない偶像とは違い、空想上の神でもなく、「生ける神」です。彼らを愛し、彼らのことを心に留め、彼らのために御業を行ってくださる、生きておられる神様です。また、ペテロたちはイエス様を「神の子」と呼びました。イエス様は、神様のことを「わたしの父」と呼び、「わたしと父とは一つです」、「わたしを見た人は父を見たのです」と、ユダヤ人に神を冒瀆することと思われるような主張をされ、神様でなければできない力ある御業を行っていました。そのようなことを弟子たちは、イエス様と一緒に過ごす中で、見聞きしてきました。そして、「いったいこの方はどなたなのだろうか」と言っていました。ついにこの時、弟子たちはイエス様こそ「キリストです」と告白したのです。

イエス様はキリストとしてこの世に来られましたが、ユダヤ王国を再び建てるのではなく、神様の御国、神様のご支配を確立するお方でした。武力によってローマから解放するのではなく、十字架上の贖いの死とよみがえりによって人々を罪から解放する方でした。

今あなたが同じように尋ねられたら、どのように答えるでしょうか。神様は聖書によって、私たちが信じるべきことを教えてください。また、教会の歴史の中でまとめられた信仰告白や信仰問答によって、信仰の内容が整理されています。私たちも、信じている内容をことばでまとめ、告白していくことが大事です。

2. キリストが教会を建てる (: 17～20)

ペテロの信仰告白に対してイエス様は「あなたは幸いです」とおっしゃいました。しばしば的外れのようなことを言ってしまったペテロですが、この告白は的を射ている正しいものです。それもそのはずで、「このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です」。神様の恵みによって、イエス様に対する正しい信仰の告白に導かれたのです。

私たちが信仰を告白することができるのも神様の恵みによります。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です」(エペソ 2:8)。そして、イエス・キリストを信じ、告白した人は「幸い」なのです。

18 節。先に、ペテロがイエス様について告白しました。今度はイエス様がペテロについて宣言します。ここで「ペテロ」と「岩」(ペトラ) がことば遊びのようになっています。「この岩」とはペテロであり、ペテロが弟子たちを代表して告白した「あなたは生ける神の子キリストです」という信仰告白のことだったでしょう。

「教会」とはエクレーシアということばで、「呼び出されたもの」という意味です。後に、イエス・キリストを信じる弟子たちの共同体を「教会」と呼ぶようになりました。そして、生まれたばかりの教会でペテロが中心的な役割を担いました。しかし、ペテロ一人に特別な権威が与えられたわけではありません。ここでペテロは弟子たちを代表してイエス様の前に立ち、神様から示された正しい信仰の告白をしました。そのようなイエス・キリストに対する信仰告白に基づいて、キリストに従う者たちの群れ、教会を、キリストが建てるのです。

そして、「この岩の上に」建てられた教会は滅びることがありません。「よみの門もそれに打ち勝つことはできません」。死に対して人はみな無力です。しかし、それほど強力な死の力でも、教会を滅ぼすことはできません。なぜなら、主イエスはやがて十字架で死なれ、よみにくだりますが、しかし、よみがえるからです。死に打ち勝ったキリストによって建てられたキリストの教会ですから、教会は死の力に負けることはありません。私たち教会は、永遠に生きておられる神様によって永遠に建てられているのです。

イエス・キリストに対する信仰告白の上に建てられている教会には、キリストの権威が与えられます。19節。この約束は後に成就しました。ペンテコステの日に、ペテロの説教を聞いて三千人の人たちがイエス・キリストを信じてバプテスマを受けました。また、異邦人のコルネリウスの親族や友人たちがペテロの説教を聞いているうちに聖霊が与えられ、バプテスマを受けました。教会の始まり、また異邦人宣教の始まりにおいてペテロが用いられました。

この「天の御国の鍵」は、ペテロだけでなく、ペテロが代表している弟子たち、また後の教会にも、同じように与えられています。託された者が福音を語り、聞いた者が信じて受け取るなら、天の御国に入ることができるのです。「天の御国の鍵」はイエス・キリストを信じる教会の私たちにも委ねられているのです。

3. 受難の予告 (: 21~23)

この時が主イエス様の公生涯の転換点となりました。21節。イエス様は、弟子たちの信仰告白を受け入れました。「そのときから」イエス様は受難の予告を始めました。それはご自身が救い主として何をなさるのか、神様のみこころはどういうことであるのかをはっきりと伝えるためでした。

イエス様の語ることを聞いた弟子たちは、自分の耳を疑いました。弟子たちは、イエス様がキリストであると分かりましたが、イエス様がキリストとしてどのように歩まれるのか、そこまで理解が及びませんでした。

22節。これは善意から出たことばです。ペテロは本気で、イエス様を力づけようとしたのでしょう。しかし、それに対するイエス様のことばは容赦のない叱責でした。23節。ペテロのこのことばは、十字架への道を進もうとするイエス様に対する妨げとなりました。かつて荒野で石をパンに変えたり、神殿の頂から飛び降りたりすることをイエス様に提案して、神様のみこころに背かせようとしたサタンの方と同じです。だから、厳しく退けられたのです。

すばらしい信仰告白をしたペテロが、そのすぐ後でこのような間違いに簡単に陥ってしまいました。人は神の真理に触れさせていただいても、いつも正しいわけではありません。間違いや失敗と隣り合わせなのです。

また、みことばに従ってなすべきことが示されているのに、そこには苦しみが待っていることが分かると、それを避けて、楽なほうへと流れてしまう誘惑があり、弱さがあることを私たちは経験するのではないのでしょうか。だからと言って、「迷ったら困難なほうを選べ」ということでもありません。主のみこころに従うときには、導きや助けが与えられ、喜びや祝福も与えられます。大事なことは、みことばによって聖霊が示されることに従えるように祈ることです。それでも私たちは間違いやすいので、間違いに気づいたら、悔い改めて、立ち返ることです。

ここでイエス様がなさった予告には、受難と共に、三日目のよみがえりについても語られていました。このイエス様の死とよみがえりこそ、父なる神様のみこころでした。御子イエス様が人となって世に来られたことの最大の使命がそこにありました。このときにはペテロたちは主イエス様の使命についてまだ理解していませんでした。しかし、弟子たちは実際にイエス様の十字架とよみがえりに接し、イエス様がキリストであることの意味を知ることになりました。そして、聖霊を与えられて、大胆にイエスこそキリストであると宣べ伝えました。「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された」(Iペテロ2:24)。イエス様の身代わりの死によって、私たちは罪を赦され、救われます。そして、罪を離れ、義のために生きるように変えられます。

イエス様は私たちにも問いかけています。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」。どのように答えますか。神様の恵みによって信仰を告白することができます。心に促しを感じるなら、素直に応答しましょう。

教会には天の御国の鍵が与えられています。イエス様こそ「生ける神の子キリストです」との信仰告白に導かれている私たちは、この信仰を証しし、神様の恵みを伝えましょう。家族や友人の中から、地域の方々の中から、イエス・キリストを信じて救われる方が起こされるように祈りましょう。